

国語シラバス 高校1年

1. 学習の到達目標と評価の観点

	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
(科目) 現代の国語	2 単位	第 1 学年	・『精選 現代の国語』（第一学習社） ・『入試頻出漢字＋現代文重要語彙 TOP2500 三訂版』（いいずな書店） ・『四訂版 プログレス現代文総演習 基本編』（いいずな書店） ・『現代文 キーワード読解〔改訂版〕』（Z会）
学習の到達目標	①社会生活において必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする（知識の習得）。②他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす（表現力と共感力）。③言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う（探究力と想像力）。		
評価の観点	基本的な漢字・語彙や、評論文が扱う概念・思想などの知識を習得し、それらを文脈の中で活用する力を身につけている。《知識・技能》 叙述をもとに内容・構成・論理の展開などを的確に捉え、目的や意図に応じた根拠の示し方や説明の仕方により、読み手の理解を得られる表現ができている。《思考力・判断力・表現力》 自らの力で主体的に本文を読み解き、内容や構成を正確に把握する力や、他者との対話や議論を通して、他者の考えに共感する力を身につけている。《主体性・多様性・協働性》		

【定期考査における観点別評価について】

年間5回の定期考査において、各回とも問題ごとに《知識・技能》《思考・判断・表現》《主体的に学習に取り組む態度》の3観点における評価を行い、点数化し、評定算出の基本資料とする。

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

- A：「十分満足できる」状況と判断されるもの・・・100%
 B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの・・・80%
 C：「努力を要する」状況と判断されるもの・・・60%
 D：未提出，未実施・・・0%

2. 学習計画及び評価方法等

※教育的効果を考え、事前に生徒に説明した上、扱う教材・内容を変更することもある。

	単 元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
1 学期 中間 考 査 ま で	①「何も知らない〈私〉」 を知ること (永田和宏) ②「私作り」とプライバ シー (阪本俊生) ③漢字テスト	・ 具体と抽象を意識して読む。 ・ 筆者の主張とその根拠とを理解する。 ・ 事実と意見との関係を意識しながら解釈し、論理的展開を把握する。 ・ 常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・ 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	【◆：重要キーワード／テーマ】 ◆ 自己と他者 ・ 事実と意見との違いを捉える。
1 学期 期 末 考 査 ま で	①「ものごとことば」 (鈴木孝夫) ②「水の東西」 (山崎正和) ③プログレス現代文総演 習 基本編 ④漢字テスト	・ 具体（例示）と抽象（意見）の関係を整理して論理構成を把握する。 ・ 筆者が主張する言語の性質（言葉には認識や思考を支えるはたらきがあること）を理解する。 ・ 東西の対比関係を用いながら、日本の水文化に見られる特徴について論じる叙述の方法を把握する。 ・ 内容や構成、論理の展開（二項対立）を的確に捉え、要旨を把握する。 ・ 文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 ・ 計画的に自学自習をする習慣をつける。 ・ 常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・ 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	◆ 言語論・記号論 ◆ 分節 ◆ 比較文化 ・ 問題演習・要約トレーニング

2 学 期 中 間 考 査 ま で	①「生と死が創るもの」 (柳澤桂子) ②「不均等な時間」 (内山節) ③プログレス現代文総演習 基本編 ④漢字テスト	・ 三つのまとまりの関係性を捉えて内容を把握し、生命科学の観点から提示される「死」について考えを深める。 ・ 文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解する。 ・ 具体的事例から一般論への展開と、対比の構造とを手がかりとして、近代化と時間の合理性との関係を理解する。 ・ 対比による推論を叙述を基に理解する。 ・ 計画的に自学自習をする習慣をつける。 ・ 常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・ 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	◆生命倫理 ◆科学 ◆テクノロジー ◆時間・空間 ◆近代化 ・ 問題演習・要約トレーニング
2 学 期 期 末 考 査 ま で	①「羅生門」(芥川龍之介) ②「現代の『世論操作』」 (林香里) ③プログレス現代文総演習 基本編 ④漢字テスト	・ 下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取る。 ・ 小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉える。 ・ 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ・ 作品の成立した背景を踏まえて、内容の解釈を深める。 ・ 情報操作の具体例を通して筆者が提起する課題を理解し、メディア社会に生きる者として問題意識を持つ。 ・ 個別の情報をどのように一般化しているかを進んで捉える。 ・ 計画的に自学自習をする習慣をつける。 ・ 常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・ 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	※教科書『精選 言語文化』 (第一学習社) ◆近代人 ◆エゴイズム ◆情報社会・メディア ◆ジャーナリズム ◆監視社会 ◆グローバル化 ・ 問題演習・要約トレーニング

3 学 期 期 末 考 査 ま で	①『『本当の自分』幻想』 (平野啓一郎)	・主題に至る論の構造を把握し、主張に説得力を持たせるための論の展開について考える。 ・事実・仮説に加え、反論を示すことによって自分の主張の正しさを補強する推論の仕方を理解する。	◆自己と他者 ◆アイデンティティ
	②「ロビンソン的人間と自然」 (村岡晋一)	・「ロビンソン・クルーソー」を例として取り上げた筆者の意図を理解したうえで、主張を把握する。 ・自然に対する人間の態度について述べた文章を読み、日本人と西洋人それぞれの特性も含め、理解する。	◆自然と人間 ◆近代合理主義 ◆資本主義”
	③プログレス現代文総演習 基本編	・計画的に自学自習をする習慣をつける。	・問題演習・要約トレーニング
	④漢字テスト	・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	

【成績評価の概要について】	
(1) 学期における評価の対象 ① 中間考査：100 点《知識・技能》《思考・判断・表現》 ② 期末考査：100 点《知識・技能》《思考・判断・表現》 ③ 平常点（授業内小テスト、提出課題等） ：50 点《知識・技能》《思考・判断・表現》《主体的に学習に取り組む態度》 (2) 学期評定の算出方法 定期考査の素点合計 200 点に対し、平常点合計は 50 点とし(素点：平常点＝8：2)、多面的評価を行う。 (3) 年度末評定の算出方法 定期考査の素点合計 500 点（5 回分）に対し、平常点合計は 125 点とし(素点：平常点＝8：2)、多面的評価を行う。	